

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

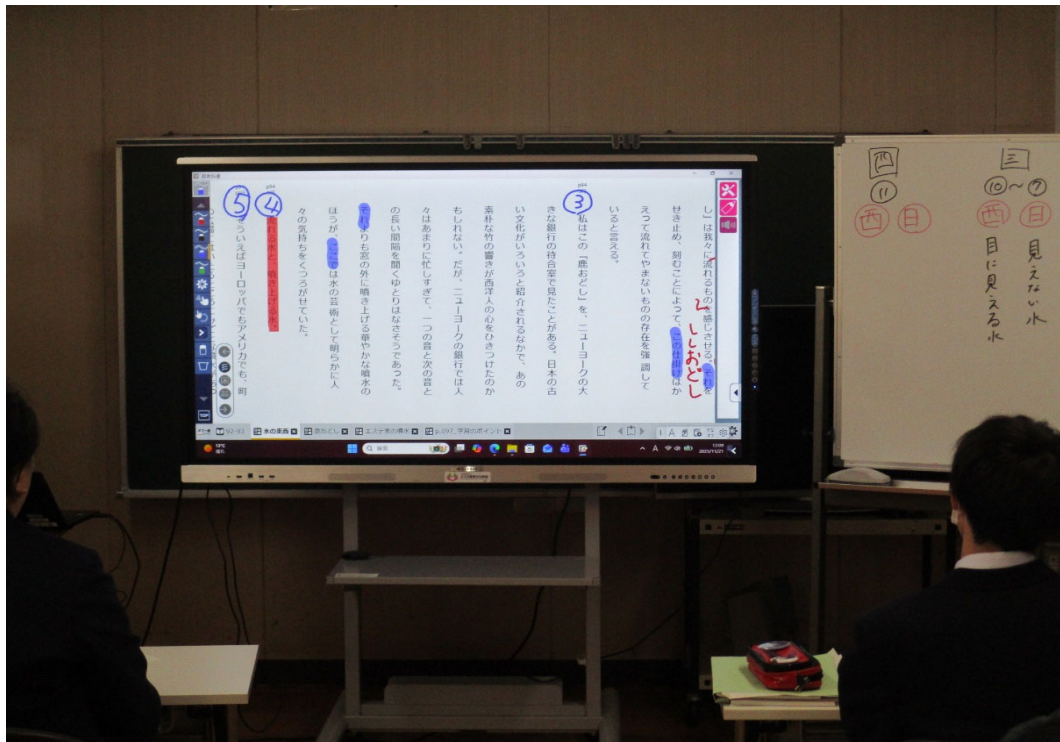
報告日 令和7年 11月 27日

P T A名		静岡県立天竜特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input checked="" type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	94人(11/1現在)				

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	全校児童生徒94人(主に高等部が使用)
使用頻度	学習内容に応じて使用
使用状況	<p>『国語』 デジタル教科書を活用し、電子黒板に映し出しながら双方向的な授業を進めている。</p> <p>『生徒会活動』 話し合い活動では、生徒個々の意見を電子黒板に書き合いながら、話し合いを行っている。</p> <p>『産業社会と人間』 委託作業の出来高を直接入力し、タイムリーな出来高を表示している。</p> <p>『体育』 球技のルール説明の際、コートテンプレートを表示し、選手やボールの動きを書き込みながら説明した。</p>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を映し出しながら授業を進めることで、生徒たちへの説明がわかりやすくなり、学習の進行がスムーズになった。 生徒個々の意見を電子黒板に書き合うことで、生徒たちが話し合いをスムーズに行うことができた。 場面緘黙の生徒にとっては、直接意見を書き込むことで全体との意見の共有をスムーズに行うことができた。 画像の提示やテンプレート画面の使用により、生徒にとって分かりやすい提示、説明ができたように感じる。また、タブレット端末やパソコンと組み合わせて使用することで、教師の教材準備の負担軽減にもつながった。
今後の活用の見通しや課題	<p>更に多くの教科での利用を進めていく。また、使い方の研修等も充実させ、電子黒板の機能を十二分に引き出していく必要があると感じている。</p> <p>その反面、台数に限りがあるため、現状は同時刻に複数の教室での使用ができない。予算とも相談しながら、台数を増やしていければと思う。</p>
その他希望や所感など	<p>電子黒板はタッチ操作や電子ペンによる操作が可能で、タブレット端末やスマートフォンに慣れている子どもたちにとって扱いやすい学習ツールです。また、デジタル教材や動画は児童・生徒の興味、関心を引きやすいため、とても有効に活用しています。将来的にはすべての教室で使用できるように設置していきたいと考えています。ありがとうございました。</p>

2. 活用の様子



『国語』 デジタル教科書の活用

